

令和7年度 学校推薦型選抜・社会人特別選抜（生活）解答および解答例

問題一 （180字）

解答例

太陽光発電分野ではメガソーラーを建設する際に山林を無造作に切り開き、生態系破壊リスクや土砂災害リスクを高めることや、太陽光パネルの廃棄に関してリサイクルや適正処分のあり方が確立されていないことがある。また風力発電分野ではバードストライク問題や、風力発電機の羽の回転にともなって騒音や低周波音が発生し、近隣住民に健康・生活被害をもたらしていることがある。

(177文字)

問題二 （89字指定）

解答

省エネによって社会全体のエネルギー消費量を大きく減らすことができれば、野山を太陽光パネルで埋め尽くしたり、居住地のそばで風力発電機を稼働させたりする必要もなくなるかもしれないから

(89字)

問題三 （400字）

解答例

省エネを行わず再エネのみに頼ることは、本文にあるように太陽光や風力、バイオマスから電気をつくるのに必要な土地面積が大変大きいという土地の有限性の問題や、電子機器や電気自動車のモーターをつくるために必要な金属資源の多くを輸入に依存しており、それらが一部の国々に偏在しているというエネルギー安全保障上の問題を引き起こす。土地が有限であるからこそ山林を無造作に切り開いて生態系を破壊するという問題や、農業など他の土地利用と競合するという問題が発生する。また金属資源の多くを輸入に頼らざるを得ないという問題は地質的な問題であるため、日本においては今後もこの問題と向き合っていかなければならない。そのため再エネを進めるにしても、その前に省エネを徹底的に進めるというカーボン・ヒエラルキーの考え方を採用し、土地開発圧や金属資源消費圧を低下させることから考えていくべきだという筆者の意見に賛成である。

(394文字)